



福祉が響き合うまち としまNICEプラン

豊島区民地域福祉活動計画

平成27年度～31年度
(2015～2019)



平成27年3月

社会福祉法人 豊島区民社会福祉協議会



福祉が響き合うまち としまNICEプラン

福祉が響きあうまちとは、区民一人ひとりが主役となり誰もが安心して
住み続けられるまちづくりをめざし、手を携えて一歩を踏み出す。その
力強い一歩が、豊島区のまち中に響きわたるまちの姿をイメージしています。

NICE とは、

N ormalization	ノーマライゼーション 共生
I ndependence	インディペンデンス 自立 支えあう
C are	ケア 気配り 見守り
E mpowerment	エンパワメント 力を引き出す

の頭文字を組み合わせているんじゃよ。



豊島区民社協キャラクター
ふくじい

はじめに



豊島区民社会福祉協議会
会長 中村 丈一

区民の皆さまとともに策定した「豊島区民社会福祉協議会地域福祉活動計画（改訂版）」（平成27～31年度）をお届けします。

「住みなれたまちでいつまでも自分らしい生活を送りたい」。これは多くの区民の願いであると思います。そのために、私たちはこれからどのように行動すればよいのか、区内8地域での各4回にわたる「区民ミーティング」で、話し合いをしていただきました。また、障がい者団体や、区内在住の外国人、大学生・高校生、子育て世代の方々からも、たくさんのご意見をいただきました。それらをまとめ、平成24年度からの活動計画を見直して策定したのが、この活動計画（改訂版）です。

区民の皆さまは、地域を愛し、誇りをもって生活していますが、一方で、少子高齢化や格差の進行による新たな福祉ニーズが生じています。平成27年度から、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）が、区内8地域の全域に配置されます。また、新庁舎内に「くらし・しごと相談支援センター」も開設されるなど、新たな福祉ニーズに挑戦する社会福祉協議会の役割はますます大きくなっています。

豊島区民社会福祉協議会は区民の皆さんとともに、この重責を活動計画の実践の中で果たしてまいります。区民の皆さまには、これまで以上のご支援・ご協力を心からお願いいたします。

この活動計画の策定にあたり熱心にご審議いただきました「豊島区民社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会」の皆さん、貴重なご意見をお寄せいただきました多くの区民の皆さんに、衷心よりお礼を申し上げます。

（平成27年3月）



豊島区民社会福祉協議会
地域福祉活動計画推進委員会
委員長 田中 英樹

「福祉が響きあうまち としまNICEプラン」(「豊島区民社会福祉協議会地域福祉活動計画(改訂版)」)を、区民の皆さんとともに策定しました。

このプランは、平成24年度からの活動計画を見直して策定したものです。従前のプラン策定時から、豊島区を取り巻く社会経済状況は大きく変化しています。その変化に対応し、新たな福祉課題に応えるために策定したのが、今回のプランです。

この活動計画には、大きな3つの特徴があります。

第1は、区民の皆さんの意見がベースになっていることです。区内8地域で各4回の「区民ミーティング」を実施したほか、障がい者団体、区内在住外国人、大学生・高校生、子育て世代など多くの皆さんからご意見をいただきました。

第2は、区民の皆さんからいただいた膨大な意見を、くまなく整理し、きめ細かく反映したことです。したがって、内容がとても具体的になっています。

第3は、区民の皆さんの意見から積み上げた事業理念である、従前からの5つの「基本目標」を踏襲しながら、「若年層の活躍」、「運営主体となる担い手の育成」、「新たに出現した知縁団体との連携」、「社会福祉協議会活動の総合的PR」などを展望した、新たな事業展開を目指しています。

4年前の、2011年3月11日に起きた東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害を残しました。今も多くの被災者が避難生活を強いられています。区内でも豊島区を仮の住まいにされている被災者が、社会福祉協議会等の支援のもとで避難生活を送っています。

大震災は古来から多くの被害をもたらしましたが、それに対処する教訓も、たくさん残されています。そのひとつに、過去の被災者が残した、貴重な「言い伝え」があります。それは、伝承であったり、石碑の碑文であったりしますが、「地域を守るために為すべきこと」を、必死の思いで未来の人々に託したものです。

私たちの活動計画も、地域が抱える課題に向き合うための貴重な「言い伝え」でありたいと思います。

本計画策定にあたり、多大なご尽力をいただいた委員、区民の皆さまに心より感謝申し上げます。

(平成27年3月)